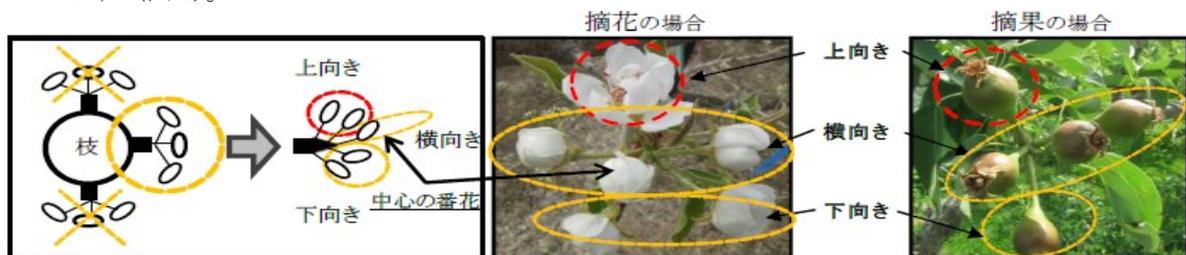


西洋なし「ラ・フランス」、「メロウリッチ」の 効率的な一輪摘花・摘果法

西洋なしでは花（果）そうの中で、「ラ・フランス」では2～4番果、「メロウリッチ」では2～3番果の品質が優れることが分かっています。そこで山形県農業総合研究センター園芸試験場では効率的に品質が優れる番果を残す摘花・摘果法を開発しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 一輪摘花（果）の際に残す横向きの花（果）そうの中で、摘花時には上向きで開花時期の早い花を、摘果時には上向きで肥大の良好な幼果を残すことで、着花（果）の多少に関わらず、品質が優れる番果を高い確率で着果させることができます（図1、2）。
2. この摘花・摘果法は、番花（果）を確認しながら作業する手法に比べ、25～30%程度作業効率が向上します（表1）。



【開発した方法】花（果）そうの中で、上向きで開花時期の早い花、または、肥大の良い幼果（赤丸）を残す（方法①）。
【向きの評価】中心の番花を横向きの基準とし、上側に着生するものを上向き、下側を下向きとする。
【本法の対象】枝の横向きに着生した花（果）そうを対象とする。

図1 摘花（果）方法の概要

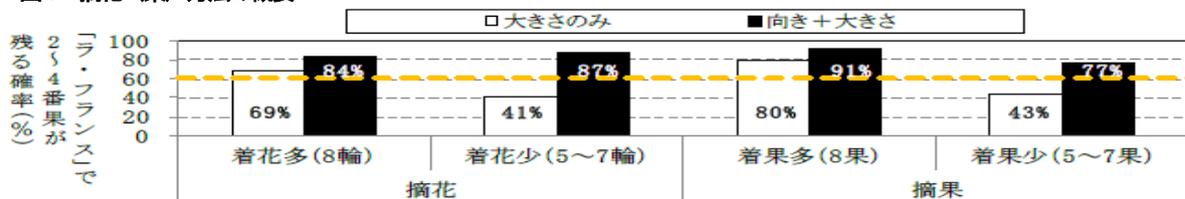


図2 「ラ・フランス」の摘花（果）方法別の優れた番果が残る確率（「メロウリッチ」も同様の傾向を示す）
*摘花（果）方法 【大きさのみ】：花そう内で開花時期の早い花、または幼果の横径が最も大きい番果を残す。
【向き+大きさ】：上図の方法①と同様。

表1 「ラ・フランス」の摘花（果）方法別の作業効率

作業内容	摘花（果）方法 ²	作業時間	
		(秒/1花(果)そう)	【確認】を100%とした時の割合
摘花	【確認】	11.9	-
	【向き+大きさ】	8.3	70%
摘果	【確認】	7.0	-
	【向き+大きさ】	5.3	75%

² 摘花（果）方法 【確認】：2～4番花（果）を確認し、残す。【向き+大きさ】：上図の方法①と同様。

☆ 活用面での留意点

1. 着花数の多い花そうでは、2または3番花（果）は、開花が早く、果実の横径が大きい傾向がみられますが、花数の少ない花そうでは、番花による開花時期や幼果の肥大差が小さいため、この手法の効果が高くなります。
2. 若木や日当たり等が悪く栄養条件が不良な部位では、花芽の充実が劣り、着花数の少ない花そうが多い傾向がみられます。
3. 詳細については、山形県農業総合研究センター園芸試験場果樹部（0237-84-4125）までお問い合わせ下さい。

（農研機構果樹茶業部門 企画管理部 果樹連携調整役 和田 雅人）